



第9回

地方自治体職員から見た共通基準

～モノサシが一緒なので、客観的に分析できます～

『観光入込客統計に関する共通基準（以下、「共通基準」）』とは、都道府県で実施する観光入込客統計の調査基準です。

この『共通基準』ですが、最大のメリットは同じ基準で調査するため、他の都道府県と比較ができることです。以前まで、各都道府県の観光入込客統計は共通のルールが無かったため、各都道府県の発表するデータの比較が困難でした。そこで、観光庁は客観的で信頼性の高い共通基準を策定し、各都道府県は平成22年4月から順次、導入してきました。

さて、今回のコラムを担当いたします私ですが、実は岐阜県恵那市から観光庁に出向しております。そこで今回は、地方自治体職員という立場でこの統計をどの様に活用するのか考えてみたいと思います。

○分析をしよう

さて、まずは現状分析をしたいと思います。平成23年の集計結果を、A県と隣接するB県、C県で比較してみました。グラフの値は、3県平均を1.0としたA県の比率となっています。

平成23年年間値（日本人・観光目的）

(1) 来観光入込客数（千人回）

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県	691	9,994	2,353	21,330
3県平均	1,245	21,616	2,878	15,793

(2) 観光消費額単価（円/人回）

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県	25,516	2,883	27,264	4,420
3県平均	17,341	3,442	20,982	5,361

(3) 観光消費額（百万円）

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県	17,629	28,810	64,148	94,278
3県平均	21,584	74,404	60,378	84,672



上記グラフから次のことがわかります。

- (1) 県外からの日帰り客の入込客数が3県平均と比べて多い（約1.4倍）。
- (2) 県外からの日帰り客一人当たりの消費額単価が3県平均と比べて低い（約0.8倍）。
- (3) 結果、「入込客数×消費額単価」である、県外・日帰り客の「観光消費額」は3県平均とあまり変わらない（約1.1倍）。

さて、A県の観光消費額を増やすにはどのような施策を打てばよいでしょうか。

県外からの日帰り客は、入込客数は多いのですが消費額単価が低いことがわかりました。そこで、『道の駅で買い物したらポイントを与えるようにして、ポイントがたまったら、県の名産品と交換できるようにしよう(県外日帰り客にお土産を買ってもらい、消費単価を上げよう)』という事業を考えてみました。

このように、他県と比較することで、その県の持つ強み・弱みが明らかになり、どの要素を高めたら良いのかが明らかになります。また、自分の都道府県と似たようなパターンを持つ都道府県の観光施策を参考にすることで、施策立案のヒントにすることもできるかと思えます。

○検証をしよう

さて、続いて共通基準を用いた事業検証を行いたいと思います。

上記事業を実施したところ、「翌年、観光消費額が 50%増えた」と仮定して、事業を検証します。

「前年よりも観光消費額が上がっている！！この事業は継続だ！！」

・・・だけで終わってしまっは勿体ないです。

本統計では、自分の県だけでなく、他都道府県との前年比較もできるからです。例えば、次のような分析もあるのではないのでしょうか。

【ケース 1】 事業実施により、消費額単価が上がった!!

翌年間値前年比 (日本人・観光目的)

(1) 観光入込客数 (前年比: ±%)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県(前年比)	±0	±0	±0	±0
3県平均(前年比)	±0	±0	±0	±0

(2) 観光消費額単価 (前年比: ±%)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県(前年比)	±0	±0	±0	+50
3県平均(前年比)	±0	±0	±0	±0

(3) 観光消費額 (前年比: ±%)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県(前年比)	±0	±0	±0	+50
3県平均(前年比)	±0	±0	±0	±0

3 県平均と比較しても、消費額単価が上がっています。狙い通りです。今後も事業を継続しましょう。

【ケース 2】 事業実施により、入込客数が増えた!!

翌年間値前年比 (日本人・観光目的)

(1) 観光入込客数 (前年比: ±%)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県(前年比)	±0	±0	±0	+50
3県平均(前年比)	±0	±0	±0	±0

(2) 観光消費額単価 (前年比: ±%)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県(前年比)	±0	±0	±0	±0
3県平均(前年比)	±0	±0	±0	±0

(3) 観光消費額 (前年比: ±%)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県(前年比)	±0	±0	±0	+50
3県平均(前年比)	±0	±0	±0	±0

県平均と比較しても、入込客数が増えています。今回の事業は、「入込客数に効果があった」としたいところですが、それが「継続的な集客効果」によるものなのか、それとも「一時的な評判で集客効果はあったが、魅力的なお土産が無かったため消費額単価は変わらなかった」のか、詳細な分析を行う必要があるのではないのでしょうか。

【ケース 3】 事業実施により、消費額単価が上がった!?

翌年間値前年比 (日本人・観光目的)

(1) 観光入込客数 (前年比: ±%)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県(前年比)	±0	±0	±0	±0
3県平均(前年比)	±0	±0	±0	±0

(2) 観光消費額単価 (前年比: ±%)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県(前年比)	±0	±0	±0	+50
3県平均(前年比)	±0	±0	±0	+50

(3) 観光消費額 (前年比: ±%)

	県内		県外	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
A県(前年比)	±0	±0	±0	+50
3県平均(前年比)	±0	±0	±0	+50

消費額単価が上がっています。・・・が、表をよく見ると 3 県平均の「県外・日帰り消費額単価」も同じような比率で上がっていました。

これでは、「3 県全域で消費額単価が上がる要因があったため、たまたま A 県も上がった」のか、「今回の事業が有効に働いて、消費額単価が上がった」のか判断できません。より詳細な事業検証が必要なようです。

このように、共通基準により、「他の都道府県や全国平均と比較して分析する」ことが可能になりました。特にケース 3 のような場合、他県との比較ができなければ事業結果の客観的な分析はできなかったでしょう。

今後は共通基準の導入・分析によって、より効率的・効果的な観光施策が進められ、魅力ある観光地づくりにつながるのではないかと期待しています。

さて、旅行者の皆さん、旅行先で本統計に用いるアンケート調査に出会うことがあるかもしれません。本統計はこのように、観光施策の検証にあたって非常に大切な調査ですので、そのときは、ぜひご協力をお願いいたします。